

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第10回 「当たり前」を実行

上司として何をすべきかのヒントは、あなたが部下時代に経験した「自分ならこうやる」といったエピソードに隠れています。その当たり前を実行しましょう。

部下時代の思い
上司として実行

「優秀な上司になるには、これからどうしたらいいのだろう」。上司になって、初めて部下を持った人なら特に、このように考えると思います。上司として何をするか考える前に、あなたが部下時代に経験した「あの上司は素晴らしい！」「あの上司は許せない！」というエピソードを思い出してみてください。

そこにあなたが上司として取るべき行動のヒントが隠れています。

わたしがまだバリバリの営業マンだったころ、こんなことがありました。台風が直撃している暴風雨の日でしたが、上司に「今日は契約が取れるまで、絶対に戻ってくるな」と言われたのです。わたしなりにそのときの部門の状況を理解し、朝から一生懸命頑張りましたが、残念ながら契約は夜になっても取れず、「こん

な日に限って……」と思いがからずなりと事務所に帰るわけにもいかず、気が重いま戻ったのは、夜中の1時を回っていました。するとなんと、上司は先に帰っていて、すでにいなかったのです。

「契約が取れるまで帰ってくるな」と自分で言うておいて、部下が帰ってくる前に自分は帰ってしまうなんてひどい上司です。「そんな上司には絶対にならないぞ」と、わたしは心に誓ったものでした。その上司からは後日、わたしたちが帰社しやすいようにわざと先に帰ったのだと言いつけ聞きました(笑)。

の出来事があったから半年後、その上司は転勤となり、わたしがその部署の上司になりました。上司の第一歩として、部下時代に「自分ならこうやる」「自分なら、絶対にこんなことはない」「こうした方がいいんじゃない」と感じていたことを一つずつ実行しまし

た。すると、わたしの部署はぐんぐん成績を上げ、全国1位になって、表彰までされたのです。部下時代に思っていたことを忘れずに、上司としての当たり前を貫いてください。
(『上司のルール』より転載)

